

島根の多彩な医師の働き方  
キャリアを支援します！

# えんネット

SUPPORT MAGAZINE 2022 NO. 09

発行：島根大学医学部地域医療支援学講座  
島根県・しまね地域医療支援センターから財政支援を受けています。



Special Discussion

“ 地域医療の現場で活躍する女性医師たち ”  
飯南町立飯南病院

## イベントなど“えんネット”の取り組み紹介

- 男女共同参画講義  
医学生のうちから、ワークライフバランス・キャリア形成について考えることを目的に平成26年度から臨床実習入門として男女共同参画講義を行っています。  
広島大学医学部附属医学教育センター教授 蓮沼直子先生をお招きし、医学部4年生を対象に行っています。地域医療支援学講座は、学生たちがキャリアを大切に働き続けるために、「えんネット」の取り組みや支援内容についても周知します。
- ワークライフバランスセミナー  
令和4年度のワークライフバランスセミナーは、石川県立大学 教養教育センター教授の澤田忠幸先生に、「医療従事者の仕事のやりがいと幸福感～Well-being～」のテーマでお話しいただきました。
- えんネット交流会  
年2回、女性医師や学生が集まり、働き方などについて楽しく話し合っています。
- 復職支援  
ライフイベント、休職後の相談も受け付けています。



えんネット交流会

## えんネット

えんネットではキャリア支援から託児付きセミナーの開催、学生教育までさまざまな支援を積極的に行っています。



**キャリア支援  
両立支援**

- 相談窓口
- 就労環境改善の取り組み
- 託児付きセミナー
- 交流会 など

**育児・介護支援  
情報提供**

- 県内病院就労支援
- 県内自治体保育支援
- 支援情報へのリンク

**学生教育**

- キャリアモデル実習
- キャリア教育
- キャリアウェビナー

<https://www.en-net.jp/>

えんネット

- 連携団体**
- しまね地域医療支援センター
  - 島根県 赤ひげバンク
  - 島根県医師会
  - 島根大学 ダイバーシティ推進室
  - 島根大学医学部附属病院  
ワークライフバランス支援室

えんネット 島根大学医学部地域医療支援学講座内  
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1  
TEL & FAX : 0853-20-2396 E-mail : en-net@med.shimane-u.ac.jp



発行 / えんネット  
2022年11月



飯南町立飯南病院  
総合診療科  
重栖 友美恵 先生  
おもす ゆみえ

飯南町立飯南病院  
総合診療科  
馬淵 沙弥佳 先生  
まぶち さやか

## 地域医療の現場で活躍する女性医師たち

今回取材したのは島根県中南部にある飯南病院。飯南町内に唯一の医療機関として、かかりつけ医から二次救急、そして訪問診療まで、幅広い役割を果たされています。行政と連携したきめ細かいサポートも特徴で、地域住民にとってはなくてはならない病院です。結婚、出産、子育てと、女性のライフステージの変化に合わせて、働きやすい環境が整っています。そんな飯南病院で活躍する、二人の女性医師に話をお聞きしました！

**堀田**：今回は、島根県中南部にある飯南病院で働く、重栖先生と馬淵先生にお話を伺います。はじめに簡単な自己紹介をお願いします。

**重栖**：医師になって4年目、飯南病院には2年前から勤務しています。出身は千葉県です。自治医科大学を卒業し、研修医のときに同級生と結婚しました。今、第二子を妊娠中で、7月から産前休暇に入らせてもらっています。

**馬淵**：医師になって3年目になりました。島根県出雲市の出身で、3カ月前に飯南病院に赴任しました。私も重栖先生と同じ自治医科大学の卒業で、同級生と結婚して地元の島根に戻ってきました。飯南病院が初めての地

域病院での勤務になりますが、島根が地元ということもあり、働きやすい環境だなと思っています。

**堀田**：お二人とも自治医科大学のご出身で、医師同士で結婚されているんですね。飯南病院で働いてみて、病院の印象はいかがですか？

**重栖**：この地域には、飯南病院の他に病院や開業医院が一つもないので、唯一の医療機関として、かかりつけ医から二次救急病院の役割まで全部こなさなければなりません。それが大変なところでもありますが、すごくやりがいを感じられます。

んやスタッフさんたちは、皆さんほぼ飯南町に住んでいるので、患者さんの生活背景をよく知っています。診察のときにもいろいろな情報を教えてもらえるので、患者さんのイメージがつかみやすいです。

**重栖**：福祉とのつながりが強いのも特徴ですね。病院の隣に保健福祉センターがあり、すぐに連携がとれる体制です。過去に、あるご家庭で兄弟の一番下の子どもを救急搬送するの

**馬淵**：生活に困っている患者さんがいたら、医療や福祉などさまざまな方向からアプローチをしようという動きがあります。当院では、医療者だけでなく地域のケアマネジャーさんや、介護施設、保健福祉課の担当者さんとともに、定期的に地域ケア会議を開いています。

を覚えてくれました。結果的に、子どもたちのことを見てもらったので、本当に助かりました。

**堀田**：医療者だけでそこまでケアするのはなかなか難しいですよね。

**重栖**：はい。地域に病院が一つしかないからこそ、行政とのつながりが強いのだと思います。

座談会の  
ファシリテーター

島根大学医学部  
地域医療支援学講座 助教  
**堀田 優希江**  
ほった ゆきえ

2009年島根大学医学部卒業、島根大学の耳鼻咽喉科での勤務を経て2020年から現職。3児の母。「えんネット」相談窓口を担当。ワークライフバランスに関する調査研究、復職支援、女性医師支援などを行う。

島根大学医学部  
地域医療支援学講座 教授  
**佐野 千晶**  
さの ちあき

1994年島根医科大学卒業、微生物学などを経て現職。2人の母。



えんネット  
MAGAZINE 2022

高齢者の一人暮らしの方もほとんどこちらで把握できていますね。  
佐野：それだけ病院と町が一体となつて患者さんを支えている地域は、他ではあまりないですよ。素晴らしいと思います。

堀田：飯南病院での働きやすさはいかがですか？

重栖：私たちは二人とも病院の敷地内にある職員住宅に住んでいるのですが、通勤時間がほとんどないので便利なんです。当直も職員住宅の自宅にいれば内線で呼び出してもらえなくて、病院に泊まらなくてもいいのがありますね。

堀田：自宅のベッドで当直できるのはいいですね。家のことをやりながら、何かあったら病院に行つて患者さんを診られますよね。その一方で、病院に近すぎて気が休まらな

いということはないですか？  
重栖：休みのときは病院に呼ばれないので、切り替えはしつかりできますね。金曜日のカンファレンスで入院の患者さんの情報を共有し、その情報をもとに当直をします。当直のときには、他の先生が担当している患者さんでも当直医が診ます。

しているものを尊重しながら診療をされているんですね。

堀田：上級医の先生たちとの関係性はいかがですか？

重栖：地域医療に熱心に取り組んでこられた先生方なので、何を聞いても教えてもらえる安心感があります。すごく話しかけやすい先生ばかりで、躊躇せずに聞きたいことが聞ける環境なのありがたいですね。

馬淵：医局が一緒なのも嬉しいですよ。私は、研修医のときに胃カメラは経験しているのですが、大腸カメラはまったくの初めてで、飯南病院に来てからマンツーマンで指導してもらっています。

堀田：3年目で大腸カメラもやられているんですね。実践力が身に付きそうです。

馬淵：胃カメラに関しても、必ず後ろに上級医の先生がついてくれます。経験の少ない手技でも安全に行えるので、とても心強いです。

重栖：カンファレンスでは、みんな話しながら気軽に相談できる雰囲気があります。「ここを診ておいた方がいいよ」「これは調べた？」と、画像を見な

しつかり連携がとれているので、時間外の呼び出しがほほえないんです。

馬淵：当直の先生を他の病院から派遣してもらうのではなく、常勤の先生たちで回っているので、安心してお任せできます。

重栖：それから、産休に入る前は、周りの先生たちやスタッフさんたちにとっても気遣ってもらいました。去年まで、お子さんを3人育てている先生が赴任されていたのですが、ここなら子育てしている先生でも、仕事と家庭が両立しやすいと思うので見ていました。

堀田：ロールモデルがいると復帰後の働き方もイメージしやすいですね。重栖先生は、産休はどのくらいとる予定ですか？

重栖：産後4ヶ月まで休んで、保育園に預けられるまでの5、6カ月目は夫が育児をとる予定です。

堀田：最近では、育児を取得される男性医師も増えていて、互いに相手の忙しさがわかるから、自然とサポートできるのかな。

堀田：私も佐野先生も医師同士からアドバイスもしてもらえますね。佐野：お二人はスキルアップのために何かされていますか？

重栖：島根で地域医療をしている先生たちがWeb講義を開催しているので、それにはできるだけ参加しています。あとは週1回の研修時間を使って、内視鏡の手技を磨いています。県内の基幹病院に行つて手技を学びながら、専門の先生たちに「こういう症例があるのですがどう思いますか？」と、質問するようにしています。

堀田：週1回、大きな病院で研修ができるのはいいですね。  
馬淵：私は、スキルアップのために最新の医療にアクセスすることを意識しています。最近では病院にも「On Date」が入ったので、そうしたリソースを活用しながら診療をしたり、オンラインでの勉強会にも積極的に参加したりしています。

佐野：馬淵先生は島根大学で診療研修や大学院での研究もされています。症例を英語論文にまとめるなど、学術的なことにも取り組まれています。

馬淵：はい。佐野先生にはいつもご指導していただいています。佐野：医師は「生涯教育」で、常

の結婚ですが、家事や子育てはまだまだ女性中心なのが当たり前という時代。今は男性の意識もだいぶ変わってきているんですね。

佐野：飯南病院では診療所も運営されていますよね。  
馬淵：はい。病院から車で10分ほどの場所に来島診療所があります。私は週に1回、診療を担当しています。血液検査やエコーができるので、普段の診療で困ることはありません。胃カメラやCT検査が必要なときは、飯南病院に送つて患者さんを診ています。

佐野：周囲には開業医院もない状況ですから、診療所で診てもらうことが命綱のようになっている患者さん多いんじゃないですか？  
馬淵：そうですね。車がなくて病院に通にくい人には診療所が便利だと思いますし、雪が積もる冬の時期には特になくならない診療所だと思います。来島診療所には飯南病院からほぼ毎日、医師を派遣する体制です。

堀田：訪問診療もされていますか？  
重栖：はい、しています。在宅での看取りもあります。病院の当直医と

に成長し続けなければなりません。だから重栖先生や馬淵先生のように、勉強したいという気持ちのある先生たちのことは応援していきたいですね。医師になつて3年、4年目のお二人にとって、今はどんな成長できる時期だと思いますか？  
堀田：重栖先生は千葉から来られて、島根の印象はいかがでしたか？  
重栖：島根の皆さんは、真面目で優しいですよ。最初の頃は方言が分からなくて、「しわい」ってなんだろうと思つていたので、今では「どこがしわいですか？」と聞けるまでになりました。

堀田：「しわい」は、「苦しい」とか「つらい」という意味でよく使われますよね。  
重栖：方言で分からないことがあつても、皆さん優しいので「どういう意味ですか？」と聞くと、一所懸命考えて他の言葉で表現してくれます。だから方言にもあまり苦勞せずに慣れましたね。

堀田：お二人はお休みの日はどのように過ごされていますか？  
馬淵：私は飯南町のごはん屋さんに行くのが好きですね。島根という

### 診療所や在宅での看取りも地域全体を支える医療

は別に、看取り担当の医師が月ごとに決まっています。とはいえ、緊急の場合は救急車で搬送されてくるので、急に往診に呼ばれるということはありません。

堀田：業務に幅があるので、医師にもさまざまな知識が求められますね。地域の病院ではできないことに限界があると思うのですが、そこでジレンマを感じることもありますか？

馬淵：たしかに「もっと大きな病院だったらあの治療ができたかもしれない」と思うことはあります。例えば、胃がんのESDでも、がん病変のサイズによってはここではできないものがあるからです。それでも、治療法をお伝えしたうえで、「やっぱりここで診てほしい」という患者さんはいらつしやいます。

重栖：「地元での暮らしを大事にしたい」という気持ちがあるんですけど、患者さんが望めば、出雲にある中核病院での治療もできます。以前、103歳の患者さんで大きな病院で手術をして、また戻ってきた人もいます。

佐野：患者さんの気持ちや、大事に奥出雲の仁多米が有名ですが、飯南米という飯南町のお米が美味しいんです。夫の趣味につられて、古墳や出雲神話にまつわる場所にも行っています。

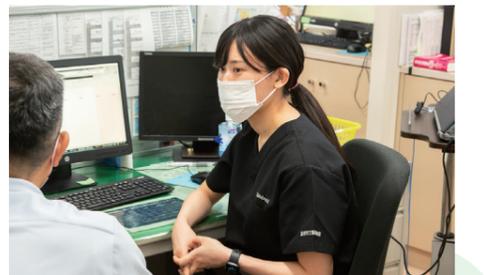
### アウトドアを満喫できる島根ならではの楽しみ

重栖：アウトドアが好きなので、飯南町に来てからダイビングをしたり、三瓶山や琴引山に登つたりしました。あちこち出かけて島根を開拓したので、副院長からは「僕たちよりも島根に詳しくなつたね」と言われました(笑)

堀田：地域医療のどんなところに魅力を感じられていますか？  
馬淵：私はもともと「地域医療だけをやりたい」と思つて医師を目指したわけではないのですが、ここで地域医療に携わるうちに、その面白さが分かってきました。

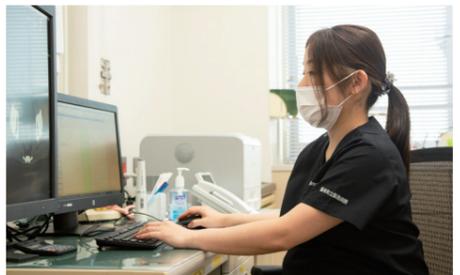
診療の内容も幅広いので、楽しみながら飽きることなくやっていけそうだなと思つています。

重栖：私も地域医療を楽しんでいます。ここでは同じ病気で患者さんの抱える背景によって、提供する医療が変わります。患者さんの生活に入り込み、寄り添っていけると



総合診療科  
馬淵 沙弥佳 先生  
まぶち さやか  
自治医科大学(2020年卒)

島根出身ということもあり、飯南町は住みやすく、働きやすい環境です。今は夫も同じ病院で働いています



総合診療科  
重栖 友美恵 先生  
おもす ゆみえ  
自治医科大学(2019年卒)

産休をきっかけに、「戻ってくるのを待っているからね」と患者さんに声を掛けてもらったのが嬉しかったです

# 人と自然が共生する里山 飯南町

～里山の魅力を体験してみませんか!!～



大万木山ブナ



シャワークライミング



赤米高原観光リಂಗ園



琴引フォレストパークスキー場



飯南町大しめなわ創作館

出雲大社神楽殿の大しめ縄の制作に代表されるしめ縄づくりの伝統文化を後世に伝える資料館



一般社団法人 飯南町観光協会 <https://www.satoyamania.net>

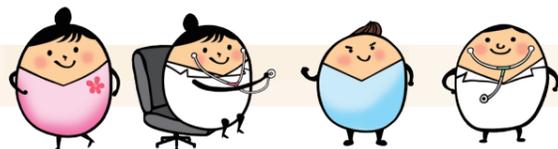
## 島根大学医学部 地域医療支援学講座

# えん ネット について



しまね地域医療支援センターの委託を受け、平成26年度より、島根大学医学部地域医療支援学講座内に両立支援のための相談窓口『えんネット』が設立されました。出産・育児・介護などのライフイベントで働き方に悩みを抱えている方々がキャリアを継続できるよう支援いたします。また、「働き続けたい」という意識を育てるために、学生時代からのキャリア教育や、すべての医師の働きやすい職場をめざした、就労環境支援、託児などに考慮した両立支援を行っていきます。

### 相談窓口



えんネットでは、現在の働き方に悩みを抱える方のための相談窓口を設置しています。個々に応じた復職への相談も受け付けています。専門科に応じた対応が必要な場合は、支援担当員としてご協力いただく、専門科の先生に相談することも可能です。また、復職相談については学内外と連携をとりながら、段階的な支援を行っています。加えて、女子学生の女性特有の相談に対しても、女性スタッフが対応しています。

どんなことでもお気軽に相談してください。

### セミナーなどに託児をつけます

子育て中の医師も学びやすいよう、セミナーなどに託児をつける支援を行っています。また、島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンターにてシミュレーショントレーニングの託児付受講もできます。



### 医師密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師のもとで実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習です。実習では、医師の一日の始まりから終わりまで密着し、仕事以外の保育園の送迎や家事などの生活場面についても見学させていただきます。参加した学生さんからは「先生の結婚・出産の頃のお話も伺い、やりたいことをあきらめずに継続されている強さに自分も勇気ができました」といった意見がありました。

飯南病院 院長

馬淵：飯南病

印象があります。そこに焦点を

### これから目指すのは 患者のニーズに応える医療

馬淵：今考えているのが、骨粗しょう症の予防です。私がこれまでいた島根県立中央病院に比べると、骨密度検査の実施率が低く、骨粗しょう症の予防医療がまだあまり認知されていない印象があります。そこに焦点を

### 患者の人生に寄り添う 地域医療の醍醐味

が地域医療の醍醐味だと感じています。堀田：同じ病気で目指すゴールが違うんですね。重栖：はい。飯南病院は地域で唯一の病院なので、例えばリハビリのために他の病院に転院することがあります。堀田：なるほど。どんな治療がベストなのかも変わりますね。

院にきたばかりの頃、担当していた患者さんの治療が血圧管理だけになったので、「あとは家庭医の先生にお任せします」と言おうとして、そこで初めて「地域の人たちにとってはこの病院しかないんだ」と気づかされました。重栖：他の地域であれば、かかりつけ医院に紹介するようなケースでも、しっかり病院で診ていく必要がありますよね。

堀田：最後に、お二人がこれから目指す医療について教えてください。馬淵：患者さんに「馬淵先生が飯南病院にいてよかったです」と思ってもらえるような医療を提供していきたいです。そのために普段の診療をしっかりとやっていくことはもちろんですが、この地域に何か残せるようなことをしたいなと。堀田：具体的に考えていることはありますか？

## 飯南町立飯南病院

### HOSPITAL DATA



飯南町立飯南病院  
〒690-3207 島根県飯石郡飯南町頓原2060  
TEL 0854-72-0221(代) FAX 0854-72-1333  
E-mail: info@iinan-hospital.jp  
<https://www.iinan-hospital.jp>



飯南病院の医師と看護師、町の保健福祉課のスタッフ、介護施設の担当者、ケアマネジャーなど、多職種が集まる「地域ケア会議」。一人暮らしの高齢者や老々介護世帯、ひとり親世帯など、サポートが必要な患者に対して、地域全体で見守りながら支える体制がとられています。



飯南町立 飯南病院 院長 角田 耕紀 先生  
すみた こうき

2000年自治医科大学卒業。島根県立中央病院での初期研修後、島根県内の山間地や離島の医療機関に勤務。2011年松江市立病院緩和ケア・ペインクリニック科で診療に従事し、2015年4月に飯南町立飯南病院長に就任し、現在に至る。